

GIẢNG DẠY TIẾNG NHẬT TẠI TRƯỜNG ĐẠI HỌC HÀ NỘI: THỰC TRẠNG VÀ ĐỊNH HƯỚNG

NGHIÊM VIỆT HƯƠNG, PHẠM THU HƯƠNG*

Bài viết giới thiệu về tình hình giảng dạy tiếng Nhật tại Trường Đại học Hà Nội trong bối cảnh mối quan hệ hữu nghị giữa Việt Nam và Nhật Bản ngày càng phát triển trên nhiều phương diện. Với lịch sử giảng dạy tiếng Nhật bắt đầu từ năm 1973 và thành lập Khoa năm 1993, Khoa tiếng Nhật đã có nhiều đóng góp thiết thực trong công cuộc đào tạo tiếng Nhật tại Việt Nam với hàng trăm cử nhân tiếng Nhật tốt nghiệp được giới doanh nghiệp cũng như các tổ chức có liên quan đến Nhật Bản đánh giá tốt. Nhiều sinh viên của trường đã đạt được những thành tích cao trong các kỳ thi của Đại sứ quán Nhật Bản, của Bộ Giáo dục và Khoa học Nhật Bản hay các kỳ thi năng lực tiếng Nhật được tổ chức tại Việt Nam. Bài viết cũng nêu lên những khó khăn cũng như những nỗ lực không ngừng của Khoa tiếng Nhật nói riêng và Trường Đại học Hà Nội nói chung trong suốt thời gian qua.

Bài viết đã tóm lược kết quả điều tra về những lý do học tiếng Nhật cũng như nguyện vọng sau khi ra trường của sinh viên hai trường đại học chuyên ngữ trên địa bàn Hà Nội. Dựa trên những kết quả điều tra ấy, bài viết cũng nêu lên những mục tiêu trong giai đoạn tiếp theo của Khoa tiếng Nhật - Trường Đại học Hà Nội.

ハノイ大学における日本語教育の現状と動向 ～社会的ニーズおよび大学院での養成への直結～

1. ベトナムにおける日本語教育と社会のニーズ

近年、ベトナムにおける日本語教育が盛んになりつつある。高等教育や中等教育、そして民間の教育機関においても、日本語学習者の数が急増している。これら学習者の急増の原因は、外交・経済・文化交流などさまざまな面にあると考えられる。外交関係の面では両国の相互理解や研究が急務になっているとともに、経済の面ではベトナムに進出している日系企業への人材が求められている。ほかに観光産業や文化交流など、日本語学習の社会におけるニーズは大きい。

しかし、現在の日本語教育は社会のニーズに応えきれていない。Phung (2007) は、ビジネス文化のギャップや専門分野の知識が理解できる人材、そし

* Khoa tiếng Nhật, Trường Đại học Hà Nội

て言語運用能力の良い人材が学習者数の割りに不足していると指摘した。また、Nguyen (2007) も言語を習得しているものの、問題の根本的な意味をまだ理解していないなど、様々な問題点を挙げている。その理由としては、日本国内ではなく海外の JFL 学習者 (Japanese as a Foreign Language) には日本語環境がなく、4 年間学習しても日本語がマスターできないことが考えられるとしている。

現在、日本国内でも主に高度な技術や知識を提供し、人材を育成するのは大学院である。そして社会のニーズ、生涯教育や社会人の再教育なども大学院が担う時代になってきている。ベトナムにおいても、将来的には日本語や日本研究などに関する高度な知識を持つ人材が必要であると考えられ、その人材を育成することが急務になるのではないかと予測される。

2. ハノイ大学における日本語教育

2.1 沿革

ハノイ大学は元ハノイ外国語大学として 1959 年に設置され、2006 年にハノイ大学と改名された。初期は海外へ行くベトナム人留学生への外国語教育という、主にベトナム教育訓練省の任務を果たしてきたが、社会のニーズに応じて一般の学生に対する外国語教育を行うに至った。

ハノイ大学における日本語教育は 1973 年に、ベトナムが日本と外交関係を樹立した年に開始された。当時、日本語教師の数が限られており、中国語・英語・ロシア語などの第二外国語として導入された。1978 年～1992 年の間は、国の事情のため、日本語教育が一時的に中止されたが、1993 年より日本の ODA が再開されたのと同時に日本との交流のニーズも強くあったため、ハノイ大学における日本語教育が復活し、さらに学部レベルにおける日本語教育も開始された。

2.2 日本学部の概要

ハノイ大学の日本語教育は日本学部にとまとめられている。主に通訳・翻訳者養成課程として、現在まで 15 年間にわたり学士を輩出している。日本学部では正規・社会教育コース (在職) に対する日本語教育の他、IT 専攻日本語、第二外国語といった教育形態がとられている。在籍学生総数は年間約 700 人である。

カリキュラムはベトナム教育訓練省のガイドライン (2002 年) に基づいて実施されている。このカリキュラムは日本語学士 (通訳翻訳者向け) の養成に向けた年制制度のカリキュラムである。このカリキュラムではベトナム語で行う共通科目の授業の他、日本語で行う科目は 141 単位となり、通訳・翻訳者養成の中心となっている (別紙①参照)。

学部は日本語演習部門、言語理論部門、日本事情文化文学部門、通訳翻訳部門からなっている。日本語演習部門は、基礎の日本語を身につけさせ、最初の2年間で日本語の知識を蓄積し、上級学年のための土台を作る役割を果たしている。3年生（第5学期）から言語理論、日本事情文化文学、通訳・翻訳演習など、より高いレベルの日本語の授業が行われている。

図1 各年次別の各部門の分配



各部門との関連性：

上掲のように、日本語演習部門は学習者に対して初級から中上級レベルまでの基礎的な日本語の教養を培うという役割を持っている。この基本の日本語を身につけた学習者が言語理論・日本事情文化文学など上級レベルを習得する際の大きな手助けになることと考えられている。

言語理論部門は、音声学・語彙論・文法の授業が設定されており、言語に関する理論の知識を教授するという特徴をもっている。また、基本の日本語を習ったときの日本語自体を理論の面で検証することができたり、日本語についてより深く理解ができるなど、日本語運用能力の向上につながることも想定している。

日本事情文化文学は日本事情をはじめ、日本の文化紹介や日本文学を教授している。日本語・日本を理解するためには、言葉だけではなく言葉を通してその背景にある日本のこと、文化文学などを把握する必要がある。これは世の

中の動向を掴むための欠かせない部門であると考えられる。さらにここで習得した知識が土台となり、通訳・翻訳の演習にも直結していくことが明らかにされている。

通訳・翻訳部門は通訳・翻訳の技能を習得する目的を持っている。将来、卒業者が基本の通訳・翻訳の基本を身につけることができるよう、経済・社会・政治など各分野における日本語や日本に関する知識、そして言語運用能力を活性化し、学習者に指導している。そのためには、日本語・日本事情文化文学・言語理論の総合的な知識を身につけなければならない、それらをうまく運用することが必要である。その結果、学習者が、一般知識や通訳・翻訳のテクニックを身につけ、卒業後それぞれの分野に特化していくことが期待されている。

ハノイ大学の日本学部は、1993 年第 1 期の学士を養成した頃、教師の数が少なかった（4 人）。初期には JICA 傘下の JOCV 協力隊の協力を得て、10 年間にわたり日本人ボランティア教師の派遣を受けた。その後の 10 年間で（2003 年まで）どんどん新しい教師を採用、教員を確保し、自力で教員を育ててきている。現在、学部の教師は約 32 人に上った。しかし、ほとんどが若手の教師であり、年齢も経験も十分ではない。そのために、若手の教師を日本に留学させ、修士号を取得してもらうこと、そして国内の研修機関で研修を受け、日本語・日本語教育・研究能力などを身につけてもらっている。

2.3 実績

ハノイ大学の日本学部は、毎年 100 人以上の卒業生を送りだしている。卒業生のほとんどが日系企業、政府関係機関などで活躍している。正規コースでも社会教育コースでも就職率が非常に高く、多くの卒業生がベトナムのみならず日本でも活躍していることがわかった。

在籍している学生でも、日本語学習に対して大変熱心であり、スピーチコンテストや日本文化祭など日本語に関する様々な活動に参加している。表 1 は毎年日本文部科学省の枠で選抜される日本語日本文化研修生の中でのハノイ大学の実績である。また表 2 はハノイ大学の学生が受験する日本語能力試験の結果である。

表 1 日本語日本文化研修生のベトナム人合格者実績

()内はハノイ大学の学生

2002 年	2003 年	2004 年	2005 年	2006 年	2007 年	2008 年
19 (10)	22 (6)	19 (9)	16 (6)	17 (6)	11 (6)	19 (8)

ソース：在ベトナム日本大使館

表2 ハノイ大学日本学部学生の日本語能力試験の受験結果

各年 (入学時~卒業時)	3級(2006年)		3級(2007年)		2級(2007年)	
	受験	合格	受験	合格	受験	合格
2005年-2009年	37人	37人			98人	44人
2006年-2010年			42人	41人		

ソース：ハノイ大学日本学部

こうして、学生が意識的に日本語学習を行い、社会が求めている証書などを取るように取り組んでいる姿勢を見せていることがわかった。

3. 今後のハノイ大学における日本語教育の動向と今後の課題

上掲のような実績があるものの、管理上あるいは教育内容においてもいくつかの難題に直面している。それは、カリキュラムの変更（年制から単位制）が迫り、教材や教具の改善、教員の補足・育成、各部門の改善などの工夫が求められているからである。また、学生たちには、今後さらに日本語の学習環境や習得方法のサポートなども必要になってくると考えられる。

ハノイ大学および国家大学外国語大学の在籍学習者（392名）を対象に日本語を習得した理由や学習者の就職の職種などについて調査を行ったところ、日本語を選んだ理由は高い収入が得られること（47.5%）が上位を示していることがわかった。さらに、卒業後の就職希望は日系企業であることが圧倒的多数を占めていた（60%）。これは、学習者自身でも就職のことを強く意識していると考えられる。

それに応じて、学部の取り組みとしては、今後のプログラムの見直し、学習者が卒業してからすぐ日系企業で適応できるような知識やスキルが必要になってくると考えられる。そのために、学部の教育では企業文化など Career Development のコースデザインが求められると考えられている。

1.でも言及したように、社会のニーズとして高度な日本語や日本に関する知識を持つ人材が必要と考えられており、同じ調査で大学院への進学希望も尋ねた。その結果、希望すると答えた人が247人、63%であることがわかった。これらの希望に答えられるように、今後ハノイ大学の課題として大学院の開設が考えられている。大学院は研究者養成だけでなく、学部の知識やスキルの特化、社会に供給できる高度な日本語ができる人材の育成、社会人の再教育など様々なことを図っていく必要がある。

今回の調査対象は高等教育機関の学生であったため、社会人の学習ニーズ、再教育ニーズなど十分に把握できるよう、対象者の範囲を広げることも必要で

ある。また、企業の声についても調査するべきだと思われる。また、今回の調査結果で驚いたことは、教師になりたいと思った人がわずかであり（21 人、5.4%）、再度確認のため日本語教育機関の教師への調査も必要であると思われる。

ハノイ大学における日本語教育は、社会のニーズに対応して日本学部の教育内容、新しいコースの導入、そして大学院の新設など学部の発展を図るために今後さまざまな取り組みが期待されている。

別紙①

学期別日本語での授業（ベトナム語での教養科目を省略した）

配分	コード	科目	必修	選択(必修)	単位数	コマ数
第一学期	JAP 101	日本語演習Ⅰ	x		12	240
第二学期	JAP 102	日本語演習Ⅱ	x		20	400
第三学期	JAP 203	日本語演習Ⅲ	x		20	400
第四学期	JAP 204	日本語演習Ⅳ	x		20	400
第五学期	JAP 311	日本語通訳・翻訳理論	x		02	30
	JAP 305	日本語音声学	x		02	30
	JAP 306	日本語語彙論	x		02	30
	JAP 309	日本事情	x		05	75
	JAP 213	日本語ベトナム語対照		x	02	30
第六学期	JAP 312	通訳翻訳演習Ⅰ	x		10	150
	JAP 307	日本語文法Ⅰ	x		03	45
	JAP 310	日本文学	x		06	90
第七学期	JAP 413	通訳翻訳演習Ⅱ	x		10	150
	JAP 408	日本語文法Ⅱ	x		03	45
	JAP 415a	言語における文化特別講座		X	02	30
	JAP 415b	日本語文法特別講座		X	03	45
	JAP 416a	観光日本語		X	02	30
	JAP 416b	貿易日本語		X	03	45
第八学期	JAP 414	通訳翻訳演習Ⅲ	x		10	150
	JAP 415a	言語における文化特別講座		X	02	30
	JAP 415b	日本語文法特別講座		X	03	45
	JAP 417	通訳翻訳実習	x		02	30
	JAP 416a	観光日本語		X	02	30
	JAP 416b	貿易日本語		X	03	45
	JAP 418	卒業論文および卒業試験	x		14	210
			合計		141	

参考文献

- 1) Trang web Bộ Ngoại giao Việt Nam, truy cập ngày 16.08.2008
http://www.mofa.gov.vn/vi/cn_vakv/ca_tbd/nr040818111106/ns080403144503
- 2) Survey Report on Japanese-Language Education Abroad 2006, Japan Foundation, 2008.
- 3) Phùng Kim Anh, 2007. *Đào tạo và sử dụng nguồn nhân lực tiếng Nhật ở Việt Nam, hiện trạng và giải pháp*. Kỷ yếu Hội thảo khoa học quốc tế "Nghiên cứu và dạy – học tiếng Nhật". Nxb Đại học Quốc gia Hà Nội.
- 4) Nguyễn Văn Hào, 2007. *Tình hình đào tạo tiếng Nhật tại Việt Nam và vấn đề sử dụng nguồn nhân lực tiếng Nhật*. Kỷ yếu Hội thảo khoa học quốc tế "Nghiên cứu và dạy – học tiếng Nhật". Nxb Đại học Quốc gia Hà Nội.
- 5) Nghiêm Việt Hương - Phạm Thu Hương, 2008. *Giảng dạy tiếng Nhật tại Trường Đại học Hà Nội. Thực trạng và định hướng*. Kỷ yếu Hội thảo "Thúc đẩy nghiên cứu Nhật bản tại Việt Nam". Đại học Khoa học Xã hội và Nhân văn – Đại học Quốc gia Hà Nội.